

児童発達支援及び放課後等デイサービス事業者の自己評価等の公表に係る届出書

提出日	令和5年3月31日
-----	-----------

法人名	小樽市(指定管理者:社会福祉法人後志報恩会)
事業所番号	0152001442
事業所名	小樽市さくら学園
障害福祉サービス名	児童発達支援センター
記載者職氏名	さくら学園施設長 臼屋理恵(小樽市こども未来部こども福祉課総務係長 荻原美貴)
電話番号	0134-54-7752(小樽市:0134-32-4111)
Eメール	kodomo-fukusi@city.otaru.lg.jp

1. 自己評価等及び公表の実施状況

(1) 自己評価等の実施期間

実施期間	2023	年	3	月	3	日
~	2023	年	3	月	17	日

(2) 評価内容についての公表日

公表日	2023	年	3	月	31	日
-----	------	---	---	---	----	---

2. 公表の手段

- 事業所のホームページ(掲載している場合はURLを記載してください)

<https://srbshouon.jp/category/shintyaku/>

- その他の媒体

事業所便り(園便り)

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 31 日

事業所名:小樽市さくら学園

保護者等数(児童数) 28

回収数 22

割合 78.5%

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	21	1			各教室がもう少し広い方がいいと思います。	教室内の整理整頓に努め、空間を広げるなどに努めてまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	17	3		2		お子様4人に対して保育士又は児童指導員1名の基準配置の職員に加え、療育時間には保育士2名及び医療ケアを補助する保育士1名を配置し、職員体制を厚くしています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境※1になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	21	1				児童が見て分かりやすいイラストを用いた手順書やポスターの活用、広い空間を仕切るなど環境の構造化に努め、太陽光が苦手な児童には、カーテンで光を遮るなどの対応をしております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	18	2		1		
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画※2が作成されているか	21	1				
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	19	1		2		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	21	1				
	8 活動プログラム※3が固定化しないよう工夫されているか	16	2	1	3		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	7	2	6	6	・コロナやその他の事情でとは思っていますが、今年度なかったこと、残念でした。 ・うちは幼稚園にも通っているけど、学園の活動として交流する機会もあるとよいと思います。	地域の幼稚園との交流に対する保護者の皆さまの期待の大きさが分かる結果でした。新型コロナウイルス感染症に対する今後の国の方針などを鑑みながら、判断や相談をしていきたいと考えます。
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21		1			
11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	22						

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング※4等)が行われているか	17	1	1	3		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	21	1				
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	21	1			すぐに分からないことも、わざわざ調べて答えていただきありがとうございます。	
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	12	6		4		新型コロナウイルスの影響により、保護者の皆さんにお集まり頂く機会を中止や縮小せざるを得ない状況が続きましたが、令和4年度親の会全体会は外部講師をお招きしての研修や保護者の方の発表などを実施いたしました。しかし、現在さくら学園を利用されている保護者の方々には、こうした全体会を経験されたことがなかったことへの配慮に欠けていたことを反省し、来年度に反映をさせてまいります。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されるとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	21	1				
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	22					すぐに対応してくれる。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	20	1		1		
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	20	2					
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	19	1	1	1		今後、年度始めの保護者会にて、各マニュアルについての説明をさせていただきますのが良いと考えます。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	21			1		令和4年度は火災を想定した避難訓練を10回、地震を想定しての避難訓練を2回実施しております。
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	19	2	1		とても楽しみにしている。	
	23 事業所の支援に満足しているか	20	1		1	大満足	

この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業者向け 小樽市さくら学園児童発達支援自己評価表

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	2 職員配置数は適切であるか	○			配置基準の児童指導員・保育士に加え加配の保育士を配置し支援の充実を図っている。配置数は適切であり、医療的なケアが必要な児童への支援も職員2名態勢での支援が来ている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境※1になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			視覚支援など児童の発達や障害特性に合わせた環境作りに配慮している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			毎日専門の業者による清掃を行っている。新型コロナ感染防止のため子ども達が遊ぶおもちゃの消毒による衛生管理を徹底している。定員に対して広めの施設、広い園庭と恵まれた環境となっている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			月2回の職員会議、責任者会議の開催に加え、必要に応じたクラス会議等の実施、児童発達支援計画作成と評価のための会議の実施等、広く職員が参画している。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者に日常の電話や連絡帳、個別の面談等による保護者の意向の把握に努めている。保護者の声は何よりも貴重な意見として受け止め、業務の改善等に役立てよう努力している。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			当学園の運営を受託している社会福祉法人後志報恩会のホームページで公開予定(3月中に実施)
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			新型コロナウイルスの関係で外部研修への参加が制限されてきたが、令和4年度はオンラインによる研修が多くあり、対面式の研修を受けていた以上に研修を受けることができていた。移動時間を取られないことも、利点のひとつであった。また、研修が行われる日程や時間帯によっては、複数の職員で研修を受けることができていた。法人や施設内での研修も同様であった。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			児童の状態を丁寧に把握し、それに基づく児童発達支援計画を作成している。
	11 子どもの適応行動の状況を計るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			施設独自のアセスメントを作成し、それに基づき児童発達支援計画を作成している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			新型コロナの関係で大人数での行事の見直しは続いたが、それに代わる少人数の行事や日常のプログラムを充実させるなどの工夫をしている。季節ごとの活動、週ごとの活動プログラム(週案)の作成などにより多様な活動ができるよう計画的に取り組んでいる。

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか	○			担当者を中心に、児童発達支援管理責任者など必要に応じて複数のスタッフが参加している。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			関係する医療機関等から専門的な助言を得る等、積極的に連携を図っている。また、令和4年10月に創設された「小樽市医療的ケア児支援事業」により、1月からさくら学園に訪問看護の派遣を受けることができています。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○			主治医からは学園での胃腸の状況を報告して指示書の提供をいただき、協力医療機関へは定期的に訪問をして報告や相談を実施、緊急時対応についての受け入れについても了解を得ていた。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			直接の引き継ぎ、書面による情報提供を組み合わせ、しっかりと情報共有できるように努力している。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			直接の引き継ぎ、書面による情報提供を組み合わせ、しっかりと情報共有できるように努力している。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			小樽市内の児童発達支援事業所が参加する自立支援協議会(こども支援部会)への参加、研修参加などを積極的に行っている。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和4年度は残念ながら未実施である。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			自立支援協議会(障害児者支援協議会幹事会・福祉いどばた会議・こども支援部会)や医療的ケア児及びその家族に対する支援検討会議(オンライン)への参加、小樽ファミリーサポートセンターへの講師派遣他実施している。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			日々の連絡帳、電話連絡、個別面談等、丁寧にやり共通理解に努めている。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			

区分	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童の発達状況に沿った大変細やかな児童発達支援計画が作成されており、原案を提示、保護者の意見も取り入れた上で同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		半年ごとの定期的な面談に加え、日常的に連絡を取り合い、必要に応じた面談を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	令和4年度、年間計画で10回の親の会、保護者同士の交流会等を予定しましたが、コロナウイルス感染症拡大防止のため3回が未実施となっている。
	36	子どもや保護者からの苦情について、対応の体勢を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		月1回の園便りの発行をベースに必要なに応じて文書その他で情報を発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		入園時にも個人情報の取り扱いに関しては保護者に説明している。職員にも十分注意するよう会議等を通じて周知徹底に努めている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		最も重要な配慮の一つと考え取り組んでいる。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			
非常時などの対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		月1回の避難訓練など繰り返し経験することで実際に緊急事態が起きたときに児童・職員ともに適切な対応が出来るよう訓練を実施している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		こどもの安全のために必ず確認しなければいけない基本情報として提供いただいている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		給食・おやつを提供するため、必ずアレルギーについては把握し、医師の指示に基づく対応をしている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		法人内研修や外部研修への参加、また毎月2回行っている職員会議で行うケース検討や虐待防止に関する会議を通して、自分たちの支援の振り返りを行うなど虐待に対する意識を高めることに努めている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		